

## ◆1年生（第13回生）保護者アンケート集計結果の分析・考察

### およびご意見・ご質問への回答◆

#### 1. 今年度の保護者アンケートについて

本校では、学校評価（学則第26条－自己点検及び評価）の一環として保護者アンケートを実施している。今回、1年生の保護者の方々を対象に「本校の教育活動に関するアンケート」を実施した。1年生は4月に入学して約6か月が経過し、徐々に看護学生としての自覚も芽生え始めている学年である。学生を一番身近で見ている保護者の方々から、本校への要望や意見をいただくため前期課程の成績表と一緒にアンケート用紙と返信用封筒を自宅に郵送し、協力を仰いだ。

なお、このたびのアンケート回収率は69.6%（アンケート対象数：23、回収数：14）であった。

#### 2. 集計結果の分析・考察

1) について、程度の違いはあるが全保護者が「知っている」（よく知っている、だいたい知っている、やや知っている）と回答した。これは、入学式後に行う「1年生保護者会」で強調して説明した内容であるためと考える。本校の教育の最大の拠り所である「教育理念・教育目的」について保護者の方々から知っていただくことは、少子化のなか職業教育において学校と保護者とが手を携えて人材を育成していくことの重要性が叫ばれる中、たいへん心強いことと認識する。今後も保護者会でのアナウンスやホームページへのアクセス勧奨等さまざまな機会と手段をとおして本校の教育に関心をもってもらうようにしたい。

2) について、回答数が多かったのは「1. 目標に向かって自分の課題に取り組めるようになった」、「2. 自分で考えて、主体的に行動できるようになった」、「6. 医療や看護などのニュースやトピックスに関心をもつようになった」であった。この3肢は、1年次の学年目標およびディプロマポリシーに繋がるものであり、学生は確実に学びの成果を獲得していると言える。学生が一番身近におられる保護者の方々が、看護師になるための成長を実感していることが分かる結果となった。

3) について、9割以上の保護者が「主体的に学習できている」（とても主体的に学習できている、主体的に学習できている、ある程度主体的に学習できている）と回答した。本校は専門課程を持つ専修学校であり「高等教育機関」である。ここでの学習スタイルは、与えられるのを待つのではなく、自らの頭で考え疑問を探究していく「自主能動」の姿勢が求められる。今回の結果に甘んじることなく、引き続き教員は授業の構成を工夫し、一人ひとりの学生の主体性を引き出すような支援をしていく必要がある。約1割の保護者が「あまり主体的に学習できていない」と回答していることについては、全教員がその意味を重く受け止めるべきことと認識する。与えられることを待つだけの学習ではなく、自ら問いを立て、答えを探究していくことの楽しさを感じられる授業の工夫をしていかななくてはならないと考える。

4) について、約8割以上の保護者が「知っている」（よく知っている、だいたい知っている、やや知っている）と回答した。特別活動については、ここ数年のコロナ禍において規模を縮小しての

開催、あるいは中止の判断をせざるを得なかったこともあり、ねらいにそった活動ができているとは言い難い。しかし「看護学生としての自覚と協調性を養い人間性を育成する」ことを目的とする価値ある活動であるため、新型コロナウイルス感染症の拡大状況を慎重に見極めつつ学生の活動を支援していきたい。

5) について、「知っている」(よく知っている、だいたい知っている、やや知っている)は約6割、「ほとんど知らない」は約4割という結果となった。このスクールカウンセリングについては、本年度から運用された事業である。4月に全学生を対象に、そのねらいや開設曜日・時間、予約方法などを説明している。スクールカウンセリングは本校の学習支援の一環であるため、ホームページ等を活用して保護者の方々への周知を図る必要がある。

6) ー1. について、約6割以上の保護者が「新しい情報がタイムリーに得られる」と回答したが、約2割の保護者は「なっていない」との回答であった。6) ー2. で保護者の視点ならではの貴重な意見を頂戴できたので、これらの意見を参考に改善を図っていきたい。今回「YouTube や Instagram の活用」「動画の作成」で学校 PR をーという意見を頂戴した。本校では今年7月1日から Instagram を使って自治会による情報発信を始めているのが、保護者への周知が行き届いていなかったことは反省すべきことと認識する。Instagram には学生が自分たちで工夫を凝らしながら編集し投稿している。学生目線で「酒看ではこんな活動をしています!」と PR している場であるので、多くの方々に見ていただく機会と手段を考えていく必要がある。

また、「見たことがない」との回答も約1割あった。ホームページは酒田市立酒田看護専門学校の情報発信の場であることを知っていただくために、入学時の保護者会でのPRなども必要かと考える。いずれにしても「見たくなるようなホームページ」になるよう工夫していく必要がある。

7) について、「話をする機会をもっている」(よくもっている、もっている、ある程度もっている)は約9割にのぼり、学生と保護者の方々とのコミュニケーションがよく図れていることが明らかになった。(当校に限らず)看護専門学校のカリキュラムは非常に過密で、その学習内容の特性上、臨地実習における「対人関係」に大きなストレスを感じる学生も少なくない。そのような中であっても「看護師になりたい」という初志を貫こうとする学生をあたたく見守っていただいている様子がうかがえた。私たちが教員という立場で、「看護師になりたい」という学生の意思を尊重しながら成長を促していきたい。

8) の自由記載については、看護師になるために歩みを進めているお子様に対する慈愛の念と期待とが読み取れ、教育現場にいる私たちは身の引き締まる思いである。また、教職員の感謝の言葉も頂戴でき、たいへん有り難く励まされる思いである。質問・要望についてもご意見を頂戴したので、この紙面を借りて回答させていただきたい。

・4)について入学前の説明会では宿泊研修や球技大会など、さまざまな場面で生徒個々がリーダーシップを発揮できるような行事があったと思いますが、行事が少なくなっているように思います。

➤本校のカリキュラムにたいへん関心をもっていただき、ありがとうございます。「入学前の説明会では～」ということでしたので、進路相談会等で情報を得られたものかと推察いたします。昨年までの進路相談会等でご提供した情報は「旧カリキュラム」に基づいているものだったため、今年の1年生にから適用されている「新カリキュラム」の中身と異なっているところがありますことをご理解いただきたく存じます。

この4月から看護師学校養成所指定規則が改正され、1年生から新しいカリキュラム（新カリキュラム）での学習が行われています。この新カリキュラムでは総単位数が5単位増となりました。そして、各養成所の裁量で領域ごとの実習単位数を一定程度自由に設定できるように改正されましたので、本校では旧カリキュラム（現在の2・3年生適用のカリキュラム）から7単位増とし、学習内容の充実を図っております。単位が増えたということは授業時間も増えました。ですが「3年」という修業年限には変わりはありませんので、新カリキュラムはかなり過密なカリキュラム運営となっております。国が「地域包括ケアシステム」にかじを切った現在、看護師の働く場所も病院（医療機関）だけではなくっており、介護保険施設や訪問看護ステーション、企業の健康管理室あるいは地域の多様な看護拠点などに拡大し、看護師に対する社会のニーズは増大しております。すなわち看護師に求められる能力が多様化しているということです。

本校ではこのニーズに対応する基礎的能力を養うため、新カリキュラムでは3年間で取得する総単位数を106単位としております。看護師国家試験の受験資格を得るためには106単位すべてを取得していることが条件となりますので、単位取得に係る授業時間の確保は必須です。そこで新カリキュラムでは、特別活動の内容と時間および配当学年などを全面的に見直したところ、「宿泊研修」の時間確保は困難であろうという結論に達しました。（この決定にあたっては、新型コロナウイルス感染症が発生した2020年以降、感染拡大防止の観点から中止としていたことも大きな要因です）。

また、球技大会については「全校交流会」として行っていたものです。この「全校交流会」は球技大会と芋煮会をあわせて行っていたため、三密と飲食による飛沫感染リスクを回避する観点から中止としておりました。ですが、今年度3年ぶりに「全校交流会」が復活しました。その中身こそ従来のものとは違いますが、『酒田まち歩き』と銘うち、酒田市地域創生部交流観光課の方々に協力をいただきながら、学生・教職員の交流の機会を設けました。

※この様子は「自治会だより」としてホームページに掲載しています。

本校のHP→キャンパスライフ→自治会活動でご覧いただけます。

ご意見にあるとおり特別活動（行事）は学生がリーダーシップを発揮する場でもあり、かつ集団行動におけるフォロワーシップの重要性を知る場でもあります。そういった体験を通して、協調性を高め豊かな人間性を育ててほしいとのねがいのもと、本校では活動計画を考えております。新カリキュラムにおいてもこのねがいは変わっておりません。私たち教職員は、特別活動（行事）だけでなく日常のあらゆる場面において、学生一人ひとりに誠実にかかわり成長を支援していきたいと考えております。

成績表がありました、クラスの平均点などがあるとありがたいです。うちの子供の点数だけが低いのであれば勉強方法の改善が必要と思いますが、平均点が低いのであれば授業のやり方、教え方の改善が必要だと思います。主体的とはいえ、ある程度の導きは必要。点数低＝自身の努力の不足とはならないと思います。授業中、グチを言う先生もおられるそうで残念でなりません。

➤ご意見ありがとうございます。平均点の記載については成績表書式の見直しを検討いたします。(なお、各科目の平均点は答案用紙返却の際、口頭または掲示で学生に通知しています)。

今回、授業づくり・教授方法についてのご意見も頂戴しましたので、本校における授業運営の考え方(カリキュラムポリシー)について少々ご説明したいと存じます。

高校までの中間試験や期末試験は試験範囲が決まっており、教科書や授業内容からの出題が多かったものと思います。そのため教科書やノートを見返し覚えることが学習の中心だったかもしれません。本校は看護師を養成する高等教育機関ですので、「覚える」ことよりも「理解する」、「受け身」よりも「能動的」な学習を支援しております。看護を現場で学ぶ「臨地実習」においては、技術テストで測れるような覚えた知識・技術を再現する力ではなく、習得した知識・技術の応用力や人間関係構築のためのコミュニケーション力など、“今ここで、ダイナミックに変化している状況の中でどのようなパフォーマンスを発揮できるか”といった力が求められます。パフォーマンスには「正答」はないため、その学生の思考や判断・行動をある一定の基準に則り評価をしていくこととなります。学生は、自分の現状を客観的に捉え自己の成長をいかに認識できるか、そして看護師になるためにどんな課題と取り組まなくてはならないのかを自覚することが大切になってきます。私たち教員はそういった自己を理解する力、状況を把握する力を育むことは、将来、看護師としてチームで活動することになる学生たちにとって非常に重要である認識しています。そのため、テストで獲得した点数はその時点での知識・技術のレベルであると捉え、その知識・技術をパフォーマンスにつなげていく思考力と実践力が身につくように学習支援をしております。

今回いただいたご意見の「成績表への平均点の記載」は、学生が自ら課題の発見と目標の設定を行ううえで必要となる指標の一つであろうと考えます。平均点はクラスの中での自分の位置を確認するには有効なデータといえますので、今後成績表に記載できるよう検討してまいります。

また、教員の態度についてのご指摘ありがとうございます。どの教員も90分の授業時間を飽きさせないためにさまざまな工夫をしながら授業を進めていきます。看護師として臨床にいたときの体験談を話したりすることもあります。そのような個人的体験を教材とするときには、場の雰囲気や言葉の選び方、言い方、またそれを話すことの意図などは吟味しなくてはならないことと認識します。ですが、今回ご指摘のことはその認識が欠けていたものと考えます。教員が「そういうつもりで言ったのではない」としても、学生が「グチ」として受け取るようなことだったのであれば、教育者の態度として不適切だったと考えます。学生を「学習権をもつ存在」として尊重できていなかったことであり、「看護師になるための教育」の価値を教員自らが貶めていることでもあります。改めて「人を育てる」・「看護師を育てる」

ことの価値を深く考え、自身の不完全さを自覚しつつ学生に真摯に向き合ってまいりたいと考えます。

日々学生と関わる教員は、看護師を目指す学生たちにとって最大のロールモデルとならなくてはなりません。ですので、教員の対応が学生にストレスを感じさせ、成長を阻害するようなことがあってはならないことと認識しております。今後とも気になることがありましたら、遠慮なくご指摘ください。

《最後に》

今回のアンケート調査にご協力を賜りました保護者の皆様に厚くお礼申し上げます。頂戴した回答ならびご意見は関係者および関係各所と共有し、本校の教育の質向上に向けた資料として活用させていただきます。

本校教職員一同、この結果を真摯に受け止め、看護の専門職業人の育成にむけてよりよい学校教育を行うよう努めて参ります。今後とも、保護者の皆様のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和4年12月27日  
酒田市立酒田看護専門学校  
副学校長 渡會睦美